



つちおと 土音響く活力ある若槻に

若槻地区住民自治協議会 会長 土屋 良和



はつこち みや しんめ 「初東風や 宮に眠れる神馬かな」 賢作

大正元年、国民新聞信濃版新年号に一等で入選した桜井土音(若槻東条)の作品。賢作は本名。土に塗れ汗して農作業に励む土音は、また、神仏をあがめ祖先を敬う俳人でもあった。掲句は新春の清々しい風を受けて神の御座す神社には、神馬が太平の世の到来を告げるかのように静かに眠り見守っている…

明けましておめでとうございます！

区民の皆さんにおかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は若槻地区住民自治協議会(こみわか)の諸事業に、格段のご支援ご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、高齢化と後継者不足等で先細りしつつある地域の農家を応援しようとプロジェクトチームを立ち上げ、応援ボランティアを募集し、若槻りんごの美味さを知ってもらおうと清泉女学院大学・短期大学の先生や学生の皆さんと共催で「りんご祭り」を開催してきました。

歴史と伝統のある若槻の農家を、地区を挙げて応援・支援頂きましたことに深く感謝申し上げます。

また本年は、4月より市立若槻公民館が住民自治協議会の傘下に入りスタートする幕開けの年でもあります。公民館はこれまで地域の文化や歴史を大事に活動してきましたが、今若槻は広い道路が東西南北に開け街並みも生活も大きく変わってきています。もう一度故郷づくりの原点に立ち返り、人と人との繋がり、先人の開拓精神に学び、そして土の文化を見直し、活力ある若槻地区住民自治協議会の新たなスタートの年にしたいものと考えています。

何はともあれ、二万人を超える若槻地区住民の皆さんが、安心・安全な暮らしができるような地域にするべく役員一同力を合わせて取り組んで参ります。

地区民の皆様方のより一層のご支援ご協力を賜りますようお願いするとともに、皆様方にとって本年が幸多き年となることをご祈念申し上げ新年の挨拶とします。



郷土の俳人 桜井土音(1887~1964)

明治20年12月14日、若槻東条に生まれる。

昭和39年10月11日逝去。享年77歳

昭和19年秋、小諸に疎開していた俳諧の師高浜虚子が、若槻傷痍軍人療養所を慰問に訪れた際、土音に再会。その時「土音健在 村一番の稲架作り」虚子と書いた色紙を贈られたという。蚊里田神社境内には、「大早のいつしか空は秋となり」の句碑がある。

「土音」とは、その名の通り田畑を耕し大地とともに生き、土と汗の滲んだ生活の句を詠んだ郷土若槻の俳人。

